子どもたちの確かな人権感覚

小・中学生の人権標語から

教育委員会では、町内の小・中学生から人権標語を募集しました。

心に響くものがたくさんありましたが、その中からいじめや差別を見抜く感性、いじめや差別をなくそうとする強い意志、他を思いやる優しさ、人権問題を自分のこととして受け止める人権感覚、心がつながり合う社会をつくりあげていこうとする意欲などに満ちている作品を優秀作品として選びました。

一つ一つの作品をじっくり読んで、子どもたちの思いを心で受け止め、「大人も子どももみんなが輝く益城町」を実感できるいじめや差別のない明るい社会づくりに努めましょう。

※特選は、役場、公民館、文化会館、交流情報センターに展示します。

町教育委員会

特選

だめなこと　ゆうきをだして　つたえよう（小1）
友達に　やさしい心を　バトンパス（小5）
そのいじめ　見ている人も　いじめっ子（小6）
あいさつで　つなぐ人の輪　心の輪（中1）

入選

あいさつで　みんなともだち（小1）
うれしいな　みんなのきもち（小1）
てをつなごう　つながるよ（小1）
いけないよ　ひとのわるぐち（小2）
言わないで　人のこころを（小2）
いじめはね　なんだか心も（小2）
きずつける　毎日いられる（小2）
手をつなごう　みんなのキラキラ（小5）
あったかい　毎日ね（小5）
えがおでね　見つけよう（小5）
いいなかま　「だいじょうぶ」（小6）
友だちは　こわれた心に（小6）
世界一の　きくくすり（小6）
たからもの　つなげよう（小6）
そのきもち　わたしとあなたの（小6）
つたえよう　心の輪（小6）
いじめはね　知らぬふり（小6）
いたいんだ　そんな自分に（小6）
ぬけないよ　さようなら（小6）
その言葉　大丈夫（小6）
いじめてる　わたしがいつも（小6）
だめなんだ　味方だよ（小6）
いのちはね　やっていい？（小6）
たからもの　自分の立場で（小6）
いじめたら　考えて（小6）
泣いている　大丈夫　そのひと言で（中1）
ちょっとまて　あたたまる（中1）
ゆうきをだして　いっていいのか（中1）
なぐられるより　その言葉（中1）
いたいんだ　友達が（中2）
心にささった　わらえてないこと（中2）
気づこうよ（中2）
みないふりでも　いやなこと（中2）
ひとつしかない　自分も他人も（中2）
同じはず（中2）
自分の心も　消さないで（中2）
正義感　あなたの誠意と（中2）
一人じゃない　君の居場所は（中3）
ここにある（中3）
言ってみて　心の中の（中3）
その悩み（中3）

ふるさとの地名漫歩

歴史の変遷と地名 353

飯田山常楽寺⑬

常楽寺幹縁文は一般には難解な仏語を駆使した漢文ですが、これは当時の知識階級や支配者層を対象として書かれたと思われます。それに対して絵縁起は庶民にも分かりやすいように絵具で描き「為使凡庸易見、借丹青手而図」（絵縁起・後記）絵解きとして絵画に添えた変体仮名漢字混じりの和文です。

この絵縁起は幹縁文の文脈に沿い、①百済日羅應（ジテレ）命（ニ）来朝図（くだらの日羅、命に應じて来朝の図＝飯田山を望み不知火海を渡る日羅が乗る古代船）、②飯田山寺創建繁栄絵図（2基の石塔と境内に集う僧と参詣の信者の絵）、③上人昇殿悟語図（日羅上人聖徳太子面会絵図＝御殿で2人とも体からそれぞれに光明を放つ絵図）の3図を主体に大きく描き、その説明をそれぞれに和文で綴ってあります。

この①の解説の中で「飯田山寺ははくさいこく（百済国）の日羅上人のたて給つるなり…」とあり、幹縁文ではクダラコクと読み絵縁起ではハクサイコクと読んでいるので、当時2通りの読み方があったのか、それとも絵縁起は庶民相手なのでそう読ませたのか不明ですが、参考までに紹介しておきます。

その絵縁起解説のまとめに、④弘誓如海歴勘正議「本尊は十一面観世音菩薩なり、大慈大悲の衆生を利益し給うこと、あまねくしく弘誓の海広く深し、言葉のおよぶところにあらず。誰の人かはかり知らんや。しばらくその一二を写してその深き海の露ばかりを筆にのせ侍りぬ」（原文は全文仮名なので理解しやすいように漢字に直しました）と記し常楽寺本尊の観音の七つの功徳を具体的に絵解きしています。

益城町文化財を訪ねる会
会長　松野國策

絵縁起和文原文